(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2011-168942
(P2011-168942A)
(43)公開日　平成23年9月1日(2011.9.1)

(51)Int.Cl.		F I			テーマコード（参考）
A41F 19/00	(2006.01)	A41F	19/00	110Z	
		A41F	19/00	101Z	

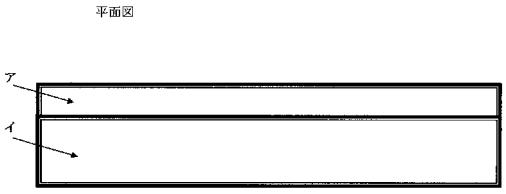
審査請求 未請求　請求項の数 2　書面　（全 3 頁）

(21)出願番号　特願2010-52341 (P2010-52341)
(22)出願日　平成22年2月18日 (2010.2.18)

(71)出願人　000190426
新井　實
群馬県桐生市境野町６丁目４４４番地
(72)発明者　新井　實
群馬県桐生市境野町六丁目４４４番地

(54)【発明の名称】帯プラス

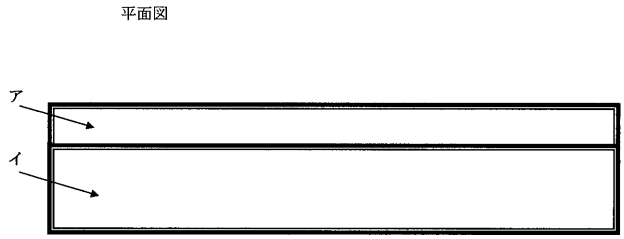
(57)【要約】　（修正有）
【課題】きものと帯の組み合わせにおいて、多彩なファッションの提供。
【解決手段】「帯プラス」は、帯結びにおいて「まえ」を更に装飾する小さな「付け帯」である。帯に「帯プラス」を加えることで新しい帯結びが楽しめる。「帯プラス」を表布と裏布を縫い合わせ等により二重に作る場合は、それぞれの色調および文様を同一又は異なるものとし、無地又は縞地あるいは文様地を単純色又はグラデーション色或いは多彩にする。「きもの」と帯の仲立ち効果があり、色彩の強調又は調和がよい。ファッション感覚が高く、手持ちの帯も新しい帯にとして使える。
【選択図】図１



【特許請求の範囲】
【請求項１】
「帯プラス」は、帯結びにおいて「まえ」を更に装飾する小さな「付け帯」である。
その大きさ「は、幅約６ｃｍ～１２ｃｍ、長さ約２０ｃｍ～５０ｃｍ位の、色無地又は色紋地の織物あるいは編物を、矩形状に一重又は二重に仕上げたものである
帯結びに現れる「まえ」上側を覆う「帯プラス」の大きさは、帯の種類により異なるが、幅約２ｃｍ～６ｃｍ、長さ約２０ｃｍ～５０ｃｍ位である。
　帯とは袋帯、京袋帯（なごや帯）、細帯、小袋帯、角帯、祝帯等である
帯の意匠は「たれ」、「まえ」および「て」で構成されている。
帯結びは、帯の「たれ」および「て」による結び方で後姿の装飾を決める、前姿は胴に捲く「まえ」により装飾が決まる。
【請求項２】
　「帯プラス」を表布と裏布を縫い合わせ等により二重に作る場合は、それぞれの色調および文様を同一又は異なるものとし、無地又は縞地あるいは文様地を単純色又はグラデーション色或いは多彩にする。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
　帯結びは１本の帯で行うのが原則であり、「帯締め」、「帯止め」、「帯揚げ」等の補助具を用いて装飾することもある。
「帯プラス」は帯結びの補助具とは異なり、帯と一体になり「まえ」上側を細く帯状に装飾する「付け帯」である。
【背景技術】
【０００２】
帯に「帯プラス」を加えることで新しい帯結びが楽しめる。
「きもの」と帯の組み合わせの仲立ちをする。
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００３】
　「きもの」と帯の組み合わせにおける、色彩の強調又は調和の仲立ちを行う。
【課題を解決するための手段】
【０００４】
　「まえ」を装飾する「帯プラス」の大きさは、幅約６ｃｍ～１２ｃｍ、長さ約２０ｃｍ～５０ｃｍ位の、色無地又は色紋地の織物あるいは編物を、矩形状に一重又は二重に仕上げたものである
帯結びに現れる「まえ」上側を覆う「帯プラス」の大きさは、帯の種類により異なるが、幅約２ｃｍ～６ｃｍ、長さ約２０ｃｍ～５０ｃｍ位である
　使用方法は、帯を胴に二重又は三重に巻くところの間に「帯プラス」の表に使用する残りを差し込み固定させる。
【０００５】
「帯プラス」の品質、色彩、意匠に新規性が亡ければならない
「帯プラス」の制作に、新井　實の開発した「絵画織」の技術技法を活用する.
【発明の効果】
【０００６】
　「きもの」と帯との調和の仲立ちができる。
　「きもの」と帯と色彩の強調又は調和の効果が発揮できる。
　「帯プラス」を使用することで、古い帯が新しい帯に見える
　「帯プラス」はファッション感覚がある。
　「帯プラス」価格が安く、使いやすい。
　和装の普及に貢献できる。

【図面の簡単な説明】
【０００７】
【図１】　「帯プラス」平面図
【図２】　「帯プラス」二重仕上の側面図
【発明を実施するための形態】
【実施例】
【０００８】
百貨店等の販売コーナーで実演および展示販売を行う。
きもの学院で転じ説明会および販売を行う
宣伝媒体で宣伝販売を行う。
【０００９】
【産業上の利用可能性】
【００１０】
呉服専門店、百貨店、きもの学院、インターネットショップ、印刷物等で宣伝販売を行うことで和装業界の振興を図る。
【符号の説明】
【００１１】
ア　折り返し表に出し、「まえ」の上側を装飾する部分
イ　帯に挟みこまれる部分
ウ　表部分
エ　裏部分

【図１】



【図２】

